

令和元年度

幼稚園だより 10月号



文京区立小日向台町幼稚園

2020年のオリンピックを想う

園長 吉羽 優子

さわやかな秋風が吹く中、子どもたちは運動会に向けての取り組みを日々楽しんでいます。年長児は、チームでリレーやタイヤ引きを毎日頑張っています。どちらも個人でなく、チームの仲間と共に気持ちや力を合わせて行う競技ですので、チームワークが大切になってきます。

「リレーでバトンを落とさないためには、どう受け渡ししたらよいか」「タイヤ引きで、より多くのタイヤを取るには、どうしたらよいか」など毎日、勝ったり負けたりする経験を通して子どもたちは考えを出し合って取り組んでいます。誰かが「バトンをギュッと持つと落とさないよ」と言うと「もし、落としてもすぐに拾って速く走ればいいんだよ」と他の子どもが考えを出します。年長の子どもたちは前向きで建設的な意見を交わすのです。最初は、バトンを落とした友達を責めるような姿もありましたが、いろいろなチームで対戦し、勝ち負け両方の感情を味わってきたからこそ、互いに励まし合い、前に進もうとする姿に変わっていったのだと思います。これぞ、スポーツマンシップですね。

年中児は、遊びの中で忍者の変身ごっこ玉入れ遊びを楽しんでいます。年少児は、巧技台や一本橋などのいろいろな運動遊具を組み合わせたコースを選んで自分なりに挑戦したり、自分で考えた渡り方を楽しんだりして遊んでいます。どちらの学年も、まだ運動会への意識は少ないようです。「運動会のための練習」ではなく、遊びの中で面白さを味わいつつ、自然に運動会当日に向かっていくのが、目的意識の高い年長児と違う取り組み方です。あと、10日余り、運動会当日のハレの姿をお楽しみに！

さて、来年のオリンピックまであと1年を切りました。オリンピックはスポーツ競技のことへの関心ももちろんですが、様々な国の人たちが大勢やってきます。肌や髪、目の色の違う外国の人たちに出会い、触れ合う機会が今以上に多くなることでしょう。オリンピックの開催年だけでなく日本で生活する外国人も増えていきます。言葉や生活習慣も異なる相手とどう関わっていくことが大切なのでしょう。文部科学省から「幼稚園での外国人幼児等の教育支援充実事業」が打ち出されました。それぞれの幼児が、言葉や外見、生活習慣などの違いを受け止め、生活や遊びを通して互いの良さを認め合えるようにすること、国籍を問わずどの子どももその子らしく生活できることが大切です。教師がその子の思いを汲み取り、「〇〇して遊びたいのね」と遊びを支えます。すると子どもたちは言葉が通じなくても、身振り手振りで一生懸命伝えようとします。相手の思いを表情や動きから読み取ろうとし、心に寄り添うようになります。「言葉の壁」なんて何のその。子どもの心って柔軟で、素晴らしいと思います。

今、ラグビーやバレーボールのワールドカップが開催されています。実際に試合を観に出掛けた子もいるようです。様々な国から集まった選手がチーム一丸となって競い合う姿はきっと子どもたちの心に響いていくと思います。大人も多様な社会に関心を深めていきたいですね。



【年少児：いろんなコースをやってみよう！】



【年中児：傘で玉入れ!!】



【年長児：リレー、負けないぞ！】